

## 救急法講習会(AED)を開催

平成23年12月10日(土)に救急法講習会(AED)を開催しました。当日は体育系18クラブ、文化系1クラブ、寮生の合計47名が参加し、郡山市消防本部の救急救命士のご指導のもと救急法を学びました。

### 講習会に参加して

機械工学科3年 ソフトテニス部部长 森井 拓也

AED講習ということで救命措置、AEDの使い方を教わりました。初めにビデオで救命措置の流れを確認し実技に移りました。流れとしては、倒れている人がいたとすると、まずは意識の確認、呼吸の確認、そして周りにいる人に協力してもらい救急車とAEDの手配をしてもらいます。次に胸骨圧迫です。やってみた感想ですが、胸骨がかなり浮き沈みし、さらに大きな力が必要なので結構体力がいります。AEDが届くまでずっと続けなければなりません。そしてAEDです。AEDとは簡単に言うと、電気ショック機です。使用方法は箱を開けると音声機能で説明してくれるのでわかりやすいです。AEDを使い終わると救急車で来るまで胸骨圧迫を30回、人工呼吸を2回の繰り返しです。人工呼吸は専用の器具や、吐血があるとやって



はいけないそうです。実際、空気を送り込むと肺が膨らみ、胸が大きくなることが確認できました。

救急車を要請してから現場に到着するまでにかかる時間はおよそ6分だそうです。この空白の6分間に僕たちに何ができるのか。今回は心肺停止だったけど、他の状況の場合どうしたらいいなどいろいろ考えさせられました。もしこういった場面に遭遇した場合、率先してやっていきたいです。僕の行動で人の命が助けられたらと思います。

### 【救急救命士さんからのメッセージ】

参加者全員が熱心に取り組んでいたのが印象的でした。1つ言えば、3も4も理解し実践できる素晴らしい学生さんばかりでした。「自分だけ良ければいい」と見て見ぬふりをせず、他人を思いやる気持ちをもって、率先して人助けをしてください。“勇気ある一歩”に期待しています。

## 「学生チャレンジプロジェクト」報告

### 演劇プロジェクト報告 ～応援できる大人に～

プロジェクト代表者 電子情報工学専攻1年 小川 夏輝

演劇プロジェクト発起人の小川です。僕は高専入学当時からずっと、演劇をやりたいかった。しかし奈良高専には演劇部がなく、演劇と関わりがないまま本科を卒業しました。

学生チャレンジプロジェクトの実施を知ったとき「やるしかない」と思い、動き始めました。いざ「やるぞー!」と声を上げれば、後輩たちが協力してくれました。演劇に興味のあった人達も加わり、メンバーは10人を越えました。集まったメンバーは経験者が1人だけ、あとは全員素人です。そんな彼らが毎週稽古を行い、誰一人、途中で投げ出すことなく、最後までやり遂げました。

2011年11月6日 高専祭2日目、演劇プロジェクトによる公演『星の王子さま in high school』を行いました。用意した80席はすぐに埋まり、立ち見が出るほどの大盛況ぶり、メンバー全員が「やってよかった」と思える舞台でした。

「大人は誰でも子供だった。でも、そのことを覚えている大人はあまりいない。」公演を通じて、僕が一番伝えたいこと。子供が何かをやろうとすると、それを「邪魔する大人」と「応援する大人」がいます。僕は、応援できる大人になりたい。学生チャレンジプロジェクトは、その見本の一つです。

公演の実現にあたって、応援してくれた全ての大人に、最大級の感謝を。そして奈良高専が、何かを成し遂げようとする学生にとって優しい学校であることを、切に願います。



### 高専訪問隊プロジェクトを 通して感じたこと

プロジェクト代表者 電気工学科3年 山中 直輝

私たちは夏休み中の3日間を利用して、富山高専射水キャンパス、石川高専、福井高専、舞鶴高専を訪問し、各高専の活発な学生の方々や先生方と交流させていただきました。

富山高専の国際ビジネス学科では、英語及びその他の外国語の授業が1年次から数多くあり、単位として認められる海外研修も多く行われていました。さらに、長期間の留学にも積極的であることに驚きました。

石川高専のオンリーワンプロジェクトでは、学生が中心となって学校敷地内の竹林を開拓して遊歩道を作ったり、中庭にオアシスを作ったりされており、学校の活発さ、積極性が伝わってきました。何よりも地域との関わりがとて深く、地域住民の方々に頼られるような学校作りがなされていました。

福井高専はTVCMやラジオ番組等を用いたPR力の高さが特徴であり、また、学生の方がとても生き生きと学校の楽しみ方を語っていただきました。私達も「真面目にバカをする!」ということに挑戦していきたい。

舞鶴高専の英語デーでは本校と同様のTOEICテストと講演会等が実施されていました。また、海外研修旅行等での実践経験を通して意識を高くもたれており、やはり何事においてもやらされていると考えては自らを伸ばせないと感じました。

今回の訪問によって奈良高専での活動を見つめ直すことができ、私たちがどのような心意気で学校生活に臨むべきか、また、これから何をしていけば私たち自身や奈良高専をより良く変えられるかも見え始めた旅となりました。おそらくそれは自分が動き、それについて来てくれる仲間作りだと感じました。いかに周りを巻き込み楽しむか。はじめをつけられるか。そういう基本的なことがポイントとなると思います。学生全員が意識することは難しいことなので、自らが動きだして周りの意識を変えるよう努めていきたい。

最後になりますが、このような機会を与えていただきました谷口校長先生をはじめとする本校教職員の皆様、私たちの訪問を快く受け入れていただきました各高専の学生・教職員の皆様に心より感謝いたします。